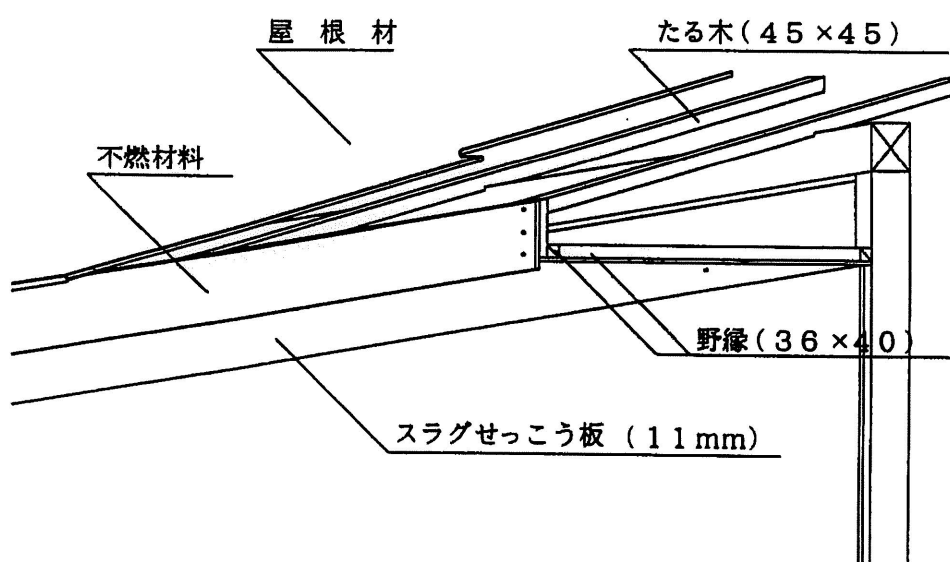


# QF045RS - 9001

・認定した構造内容又は建築材料の内容(寸法単位: mm)

1. 部分、耐火性能の区分 軒裏 45分準耐火
2. 試験機関名
3. 構造説明図(単位 mm)

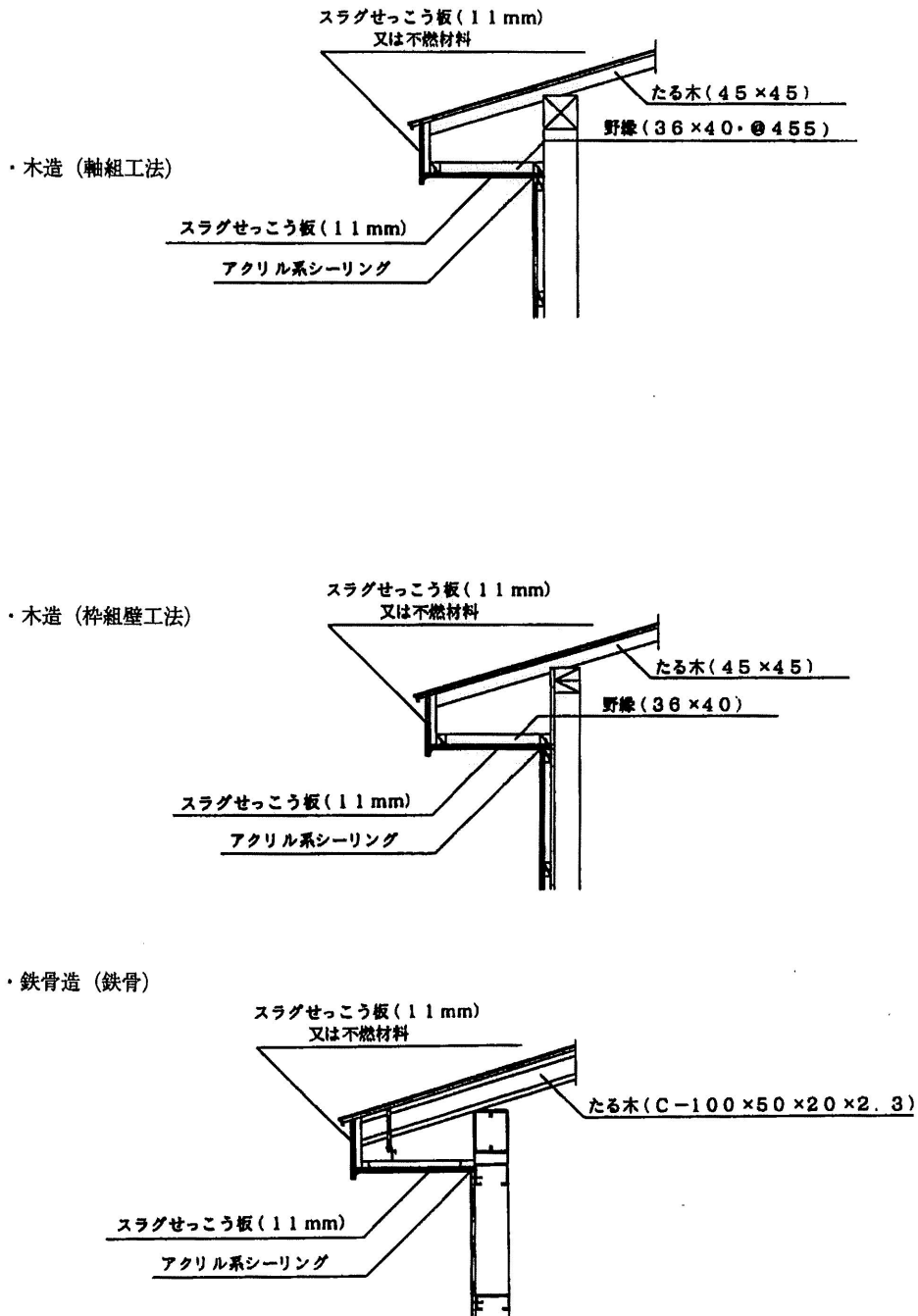
## 透視図



(軒の出が500mm以下の場合)

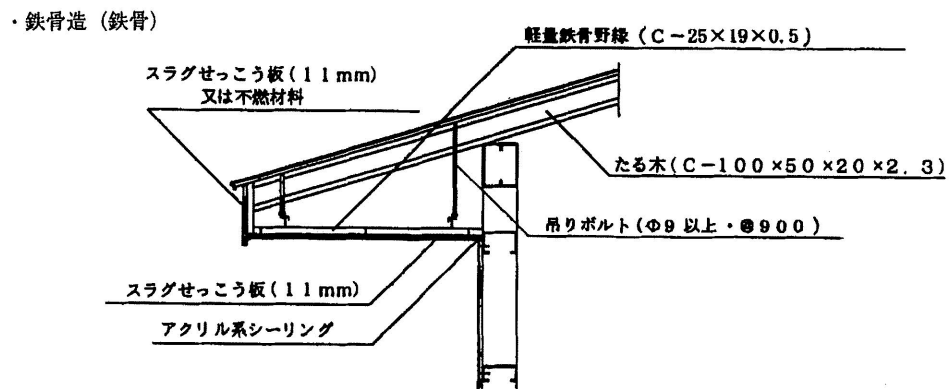
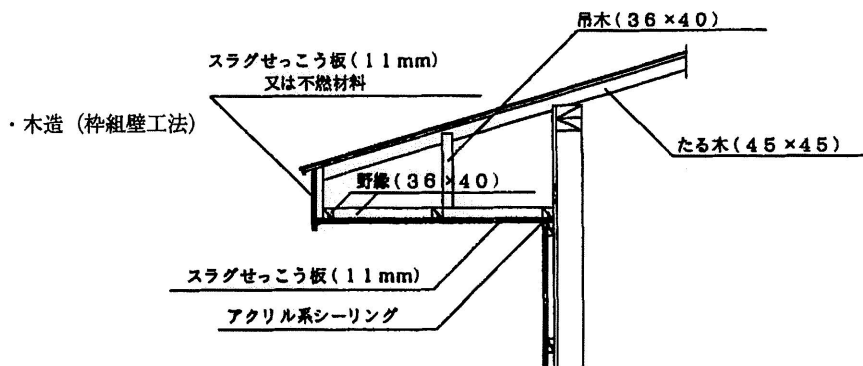
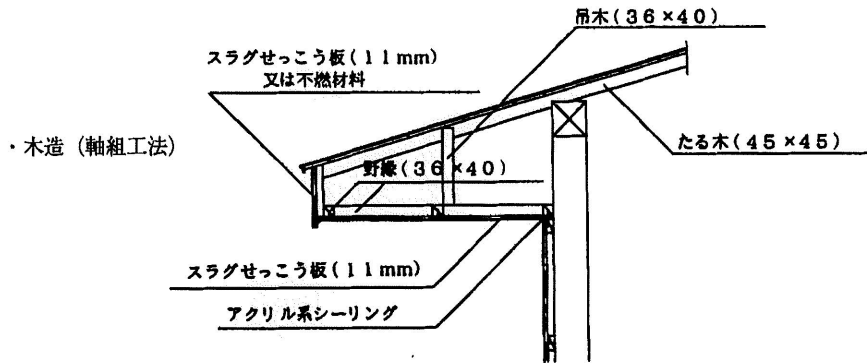
垂直断面図

(軒の出が500mm以下の場合)

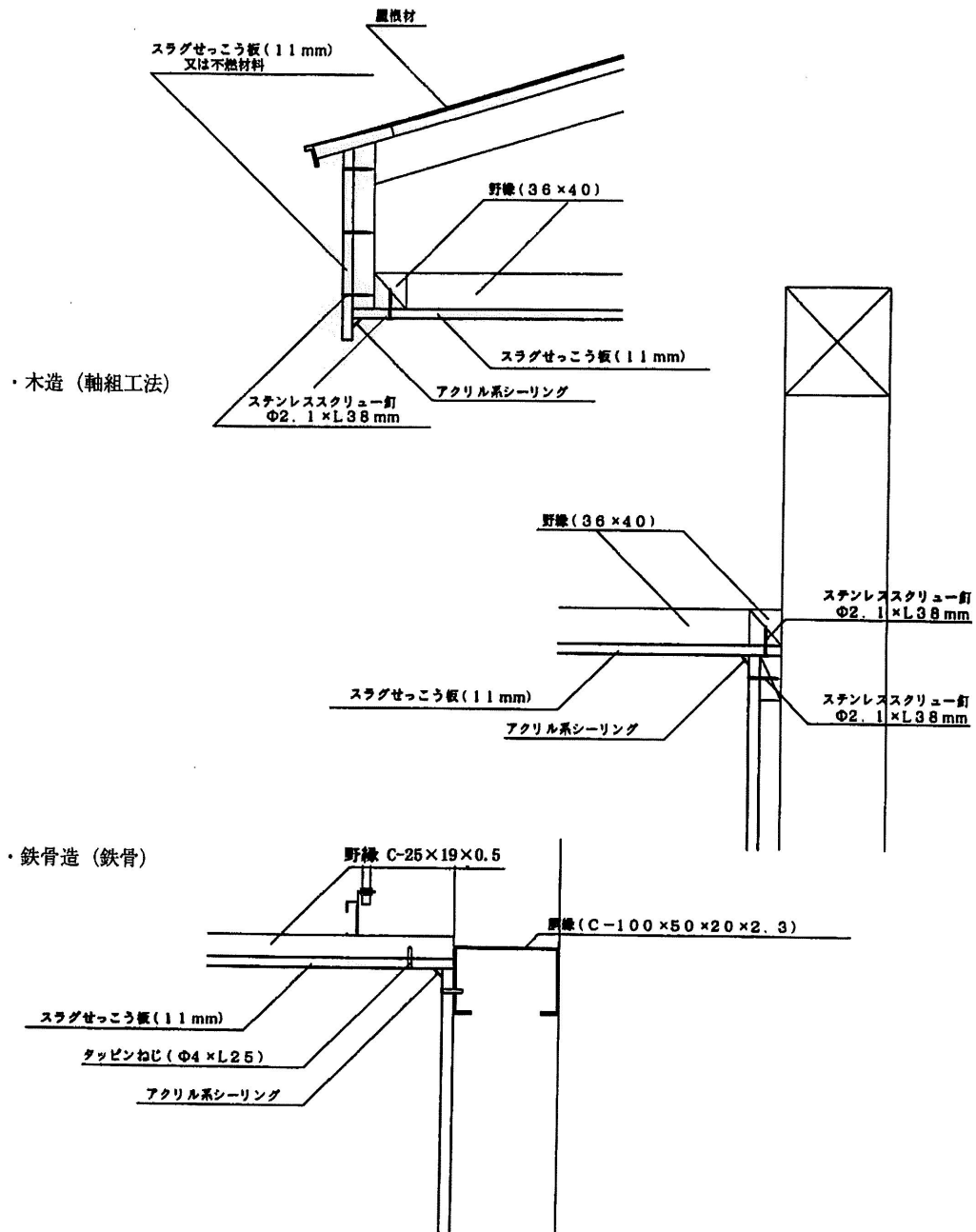


垂直断面図

(軒の出が500mmを超える場合)



詳細図



4. 材料等説明

- (1) 主構成材料

① 外装材

スラゲせっこう板(不燃 第1030号)

イ. 形状・寸法

厚 さ 11±0.5mm、12±0.5mm

大きさ 標準寸法 910×1820mm±1mm

最大寸法 1210×2730mm±1mm

ロ. 組成(wt%)

石膏 41%

スラゲ 41%

耐アルカリガラス繊維 5%

パーライト 5%(JIS A 5007 S種 0.15~1.2)

パルプ 5%(故紙)

石灰 3%(JIS R 9001 消石灰特号)

ハ. 性能

かさ比重(絶乾) 1.0±0.1

曲げ強度 100kg/cm<sup>2</sup>以上(JIS A 1408 4号試験体)

含水率 12%以下(出荷時)

重量 11.0kg/m<sup>2</sup>(11mm)、12.0kg/m<sup>2</sup>(12mm)

② 軸組

木造(軸組工法) : たる木 45×45mm、野縁 36×40mm、吊り木 36×40mm以上

木造(桝組壁工法) : たる木 45×45mm、野縁 36×40mm、吊り木 36×40mm以上

鉄骨造(鉄骨) : たる木 C-100×50×20×2.3mm、野縁 C-25×19×0.5mm以上

吊りボルト(φ9以上、@900)

(2) 副構成材料

a. 釘 ステンレスクリュー釘 φ2.1×L38mm(JIS A 5554)以上

b. タッピンねじ φ4×L25mm(JIS B 1122)以上

c. コーキング アクリル系シーリング(JIS A 5758) 塗布量30g/m

d. ステープル 軟鋼 10mm×15mm以上

e. ジョイナー 材質:(着色)亜鉛めっき鋼板 厚さ0.3mm以上(JIS G 3302)

(3) 構造の適用範囲

a. 木造(軸組工法)

b. 木造(桝組壁工法)

c. 鉄骨造(鉄骨)

5. 標準仕様(施工仕様)

(1) 下地

a. 木造軸組工法

① 下地は、たる木(45×45mm)を455mmの間隔に配置する。

② 野縁(36×40mm)は455mmの間隔に配置し、たる木・軒桁に取り付ける。

③ 軒の出が500mmを超える場合、吊り木(36×40mm、@455)を設ける。

(ただし、軒の出の最大寸法は900mmとする。)

b. 枠組壁工法

① たる木は、寸法45×45mm以上の材料を使用し、455mm以下の間隔に配置する。

② 野縁(36×40mm)は455mmの間隔に配置し、たる木・軒桁に取り付ける。

③ 軒の出が500mmを超える場合、吊り木(36×40mm、@455)を設ける。

(ただし、軒の出の最大寸法は900mmとする。)

c. 鉄骨造

① たる木(C-100×50×20×2.3mm)を910mmの間隔に配置する。

② 野縁は(C-25×19×0.5mm)455mmの間隔に配置し、たる木・軒桁に取り付ける。

③ 軒の出が500mmを超える場合、両端から150mm以内に吊りボルト(φ9以上、@900)を設ける。

④ 軒の出が500mm以下の場合、片端から150mm以内に吊りボルト(φ9以上、@900)を設ける。

(ただし、軒の出の最大寸法は900mmとする。)

(2) スラゲせっこう板の取付け

① ステンレス釘(2.1×38mm)を使用し、製品の端部より20mm以上離れた位置に止め付ける。但し、鉄骨造の場合はタッピンねじ(4×25mm)を使用する。

② 止め付けのピッチは、縦方向に455mm以下ごととし、幅方向に150mm以下で止める。

(3) 目地処理

目地部には、アクリル系のシーリング(30g/m)を塗布し、必要に応じジョイナーを用い納める。

(4) 表面仕上げ

防火上支障のない材料で仕上げる。

6. 留意事項

(1) 保管に関する事項

保管の際は、水・湿気を避け平らな所に積み重ねる。

(2) 運搬に関する事項

持ち運ぶ際は、面を垂直に持ち特に角部に衝撃を与えたり、面に傷をつけないよう注意する。

7. 付帯条件 なし